

八戸市観光振興プラン(素案)に対するパブリックコメント一覧

1. 意見募集の実施期間 令和7年4月10日(木)～5月9日(金)
2. 寄せられた意見数 4件(提出者1者)
3. 意見内容(概要)及び市の考え方について

	意見内容(概要)	市の考え方
1	食のまち・八戸推進は互いのイメージの中に館鼻日曜朝市の賑わいや、東北を代表する八食センターの買い物客で混雑する光景があります。八戸はB1グランプリの生まれた街。郷土料理せんべい汁がブランド化して「地元で食する」「お土産で食する」形が定着しました。特に日曜朝市は当地にとって必要な「通年観光」の実現を生み出しました。どこの都市も「通年観光」は大きな魅力です。一年を通じてお客様が来て「宿泊」「飲食」「土産品」などの経済効果が見込めるからです。	通年観光の推進は、地域経済の安定化・観光資源の持続可能な活用・観光客の分散化などに大きく寄与するものであり、八戸市の観光を活性化するうえで重要な視点であると考えております。 市といたしましては、閑散期である冬季観光の需要を拡大するため、各種事業に取り組んでまいります。
2	国立公園種差海岸に吉田初三郎の「潮観荘」の復元の可能性。 これは前市長のいわば、公約でもあっただけに尚更です。 自然・文化・観光の拠点施設が、インフォメーションセンターと別に整備されるのは大切です。	本プランにおいて、「国立公園種差海岸の魅力向上」の施策の中で、「文人墨客に愛された独自の魅力や歴史を活かしたブランディング」に取り組むこととしており、「潮観荘」の復元については、様々な整備手法や可能性について検討してまいります。
3	インバンド対応は時代の要請。八戸に不足しているのは外人客受け入れの「標識」「表示」(メニューも含め)など。 それに「外国人対応のガイド育成」も喫緊の課題。 大型豪華客船は、青森市が「受け入れ先進地」で、今年も50隻あまりの寄港が決まっています。八戸市もその点、更なる「寄港船の誘致活動」が必要です。	近年増加している訪日外国人観光客への対応は、地域経済の活性化や持続可能な観光振興を図る上で、急務であると考えております。 本プランにおいても「受入環境の整備」に取り組むこととしており、「標識」「表示」についても、多言語対応の整備を進めてまいります。 また、大型客船の誘致につきましても本プランでも誘致を促進していくことを掲載しており、定期的な入港を目指し、誘致活動についても実施してまいります。
4	「観光で稼ぐ」ことは大切ですが、基本的に「一人一人のお客様を大切に」した接客やガイドの「おもてなしの気持ち」がなければなりません。その点、原点に立ち返り、再点検することも意味のあることです。また、観光地八戸も今後の重要な施策と位置づけるなら、身障者受け入れのバリアフリー対応の視点、街づくりも大切です。	ご指摘のとおり、市民一人ひとりの「おもてなしの気持ち」が重要であると考えており、「市民向けの観光ガイドブックの作成」や「子どもたちが地域を学び、誇りを持てるような教育プログラムの実施」などを通じて、市民が自分たちの街に誇りを持ち、観光客を温かく迎えることができるような取組を実施してまいります。 また、誰もが安心・安全に楽しめる観光地の整備は、共生社会の実現に向けて重要なことであると考えており、障がい者団体などの意見を伺いながら具体の事業について検討してまいります。